社会資本総合整備計画

行田市文化ゾーン地区都市再生整備計画

平成23年3月31日

埼玉県行田市

都市再生整備計画（第5回変更）

行田市文化ゾーン地区

埼玉県　行田市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	行田市	地区名	行田市文化ゾーン地区	面積	110 ha

計画期間	平成 19 年度 ～ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ～ 平成 23 年度

目標

大目標 ： 水・緑・文化・歴史空間の有機的ネットワークを形成することにより、交流拠点の整備や市民生活の質の向上を図り、行田市全体の活性化を目指す。
目標 1 ： 忍城址やさきたま古墳公園などの歴史的資源が持つ魅力を活かした、個性あるまちづくりを進める。
目標 2 ： まちなかの活性化を促進するため、人々を市街地へ誘導し、回遊させる仕組みづくりを進める。
目標 3 ： 都市機能の充実を図り、市民が心豊かで快適に暮らせるまちづくりを進める。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

●行田市は、埼玉県北部に位置する人口約8万7千人の都市である。北は利根川を挟んで群馬県に接し、市域のほぼ全域が利根川と荒川の沖積平野となっている。このため、忍川や元荒川をはじめとした河川が縦横に流れ、肥沃な土壌の穀倉地帯を形成しているとともに、武蔵水路や見沼代用水といった導水路の起点となるなど、首都圏の水供給における要衝として、また、水と緑豊かな田園都市として発展を遂げてきた。
●国指定史跡である「さきたま古墳群」や、埼玉県指定旧跡である「忍城跡」などの歴史的遺産が数多く残され、歴史・文化都市としてもその名を知られている。
●平成18年1月1日には、隣接する北埼玉郡南河原村と合併し、埼玉県北東地域の中心都市として新たなスタートを切ったところである。
●市の主要交通機関として、東京都心に直結するJR高崎線があるが、市の縁辺部を通る路線となっているため、市の中心部においては、高度経済成長期からバブル期にかけての開発圧力から逃れ、昔からの面影が残る街並みや区画が、結果的に多く残される形となった。
●「行田市文化ゾーン地区」は、そのような本市の中心部に位置し、市役所をはじめとした公共・公益施設が立地する業務地区や、忍城址、郷土博物館、水城公園などの、歴史と文化、水と緑の地域資源を内包する、市の顔と呼ぶに相応しい地区である。
●平成14年度～18年度の5ヵ年にわたり、「まちづくり総合支援事業」を活用し、本市の持つ地域資源を有機的且つ有効的に繋げる独自のまちづくりを進めた結果、事業完了区間において徐々に整備効果が表れはじめ、整備済の道路を行き交う人の数が目に見えて増加するなど、大きな成果を挙げている。
●しかしながら、その整備はまだ半ばの段階であるため、こうした成果も一部の区域に止まっており、各地区を結ぶ十分なネットワークの形成には至っていない状況である。
●このようなことから、今後、事業を総合的且つ集中的に実施し、地域の特性を活かしつつ目標に沿ったまちづくりを推進するためには、まちづくり交付金が不可欠となっている。

課題

●市の中心部を通る秩父鉄道（秩父線）は、秩父市と羽生市を結ぶ東西方向の輸送機関であるが、東京都心部と直結していないため、朝夕の通勤・通学利用者などの人々の往来が少なく、日常生活の営みの中で自然に人が集まるまちの仕組みとなっていない。
●そういった一見マイナスとも見える要素をプラスの方向へと転換するため、本市の持つ歴史的・文化的資源を最大限に活用し、古墳時代からの悠久の時の流れになぞらえ、ゆったりとした時間の流れが楽しめるような質の高い整備を図るなど、他の市町村にはない独自のまちづくりを展開していくことが必要である。
●ついては、これまでの「まちづくり総合支援事業」による整備に引き続き、景観や歩く楽しさ、休憩スポットといった、子供からお年寄りまで幅広い世代に受け入れられる要素を大切にした整備を進めることで、誰にとっても住みやすい、訪れやすい環境を整えていくことが重要である。
●また、商店街をはじめとした中心市街地の空洞化に歯止めがかからない現状に鑑み、その閉塞感を少しでも打開できるよう、市民が暮らしやすいような都市機能の充実を図ることや、訪れる人の興味・関心を引く仕掛けづくり、点在する観光スポットを回遊させる仕組みづくりも重要な要素である。

将来ビジョン（中長期）

●『第4次行田市総合振興計画』・・・豊富な地域資源を活用した整備を推進し、観光ポイントのネットワーク化を図り、市街地と連携しながら本市の個性を表現するとともに、住む人も訪れる人もやすらぎを感じられるような空間の創出に努める。
●『行田市都市計画マスタープラン』・・・広域的なレクリエーション機能を持つさきたま古墳公園と、停滞する中心市街地の相互連結を強化するため、歴史と活力が調和する行田市を象徴する道路景観づくりを進める。
●『行田市文化ゾーン整備計画』・・・忍城址やさきたま古墳公園など、市民の心の拠り所となる行田を象徴する風景や、行田独自の観光文化を創造するとともに、新しい商業や産業を育み、観光施設を訪れる人々をまちなかへ導くことで、市内全体の活性化に結びつける。

目標を定量化する指標

指　標	単 位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
バス利用客数	人／年	市内循環バスの利用客数	市役所通り・水城公園通りの整備により、市内を訪れるきっかけを多く生み出すことで、循環バス利用客数を増加させ、地区内はもとより市全体への整備効果の波及を図る。	66,703	平成17年	70,000	平成23年
観光入込客数	人	忍城時代祭りに訪れる観光客数	多目的広場を整備し、現在別の場所で開催している祭りの開催環境を整えることで、入込客の一層の増加を図り、その波及効果で街なかの活性化を目指す。	25,000	平成17年	30,000	平成23年
アンケートにおける満足度	%	『行田市民意識調査』での「まちの住みごごち」肯定派の割合	各整備によりまちの住みごごちの改善を図り、4年に一度の調査において市民満足度の向上を目指す。	39.0	平成14年	45.0	平成22年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1【歴史的資源が持つ魅力を生かした、独自のまちづくり】 ・本市の持つ地域資源である「さきたま古墳公園」や「忍城址」などが持つ歴史的魅力を、十分にまちづくりに反映させ、他の市町村にはない独自性を打ち出し、行田市のアイデンティティ確立を図る。	・多目的広場整備　【基幹事業／地域生活基盤施設】 ・案内板、説明板整備　【基幹事業／地域生活基盤施設】
整備方針2【人々を市街地へ誘導し、回遊させる仕組みづくり】 ・市民はもとより、主にさきたま古墳公園を訪れる観光客などに対して、市の持つ潜在的な魅力を認識させることで、散策してみたいと思われるようなまちの構造を創り出す。	・市道第6.2-8号線整備　【基幹事業／高質空間形成施設】 ・案内板、説明板整備　【基幹事業／地域生活基盤施設】
整備方針3【都市機能の充実による、心豊かで快適に暮らせるまちづくり】 ・本地区への市内外からのアクセス及び主要交通拠点へのアクセスを強化し、誰もが心にゆとりを持ち、豊かな日常生活を享受できるよう都市基盤を整える。	・南大通線整備　【基幹事業／道路】 ・市道第5.1-3号線整備　【基幹事業／道路】

その他

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	1,167.2	交付限度額	468.3	国費率	0.401

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
道路		市道第5.1-3号線	行田市	直	L=120m	19	23	19	23	244	244	244		244
道路		南大通線	行田市	直	L=140m	19	22	20	22	860	860	860		860
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		―			―									
地域生活基盤施設		―	行田市	直	―	19	23	19	23	35.9	35.9	35.9		35.9
高質空間形成施設		―	行田市	直	―	19	19	19	19	27	27	27		27
高次都市施設		―			―									
既存建造物活用事業		―			―									
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										1,166.9	1,166.9	1,166.9	0	1,166.9 …A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業	文化財案内パンフレット作成	行田市文化ゾーン地区	行田市	直		21	23	21	23	0.3	0.3	0.3		0.3
														0
														0
事業活用調査		―			―									0
		―			―									0
まちづくり活動推進事業		―			―									0
		―			―									0
合計										0.3	0.3	0.3	0	0.3 …B
													合計(A+B)	1,167.2

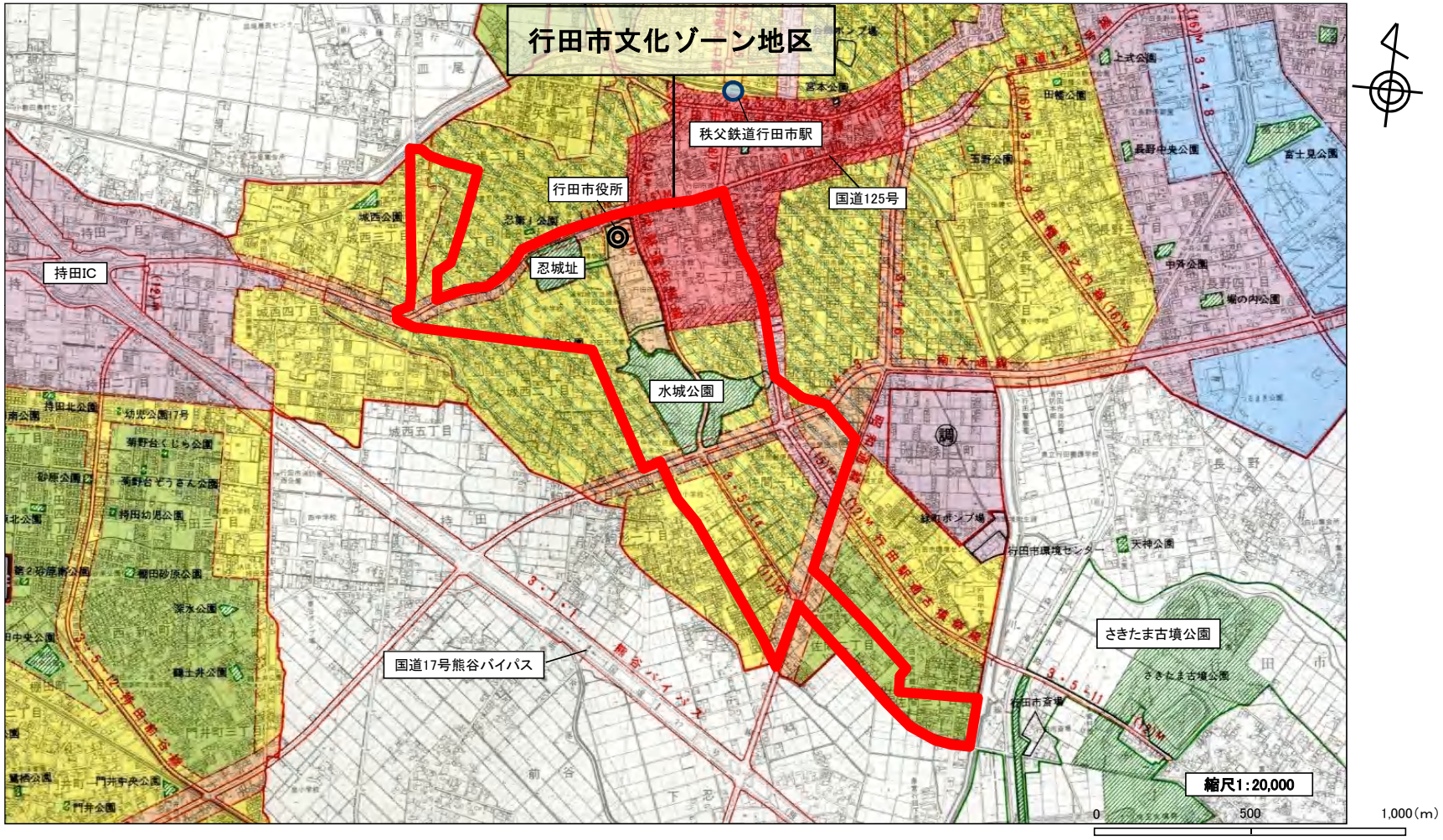
（参考）関連事業

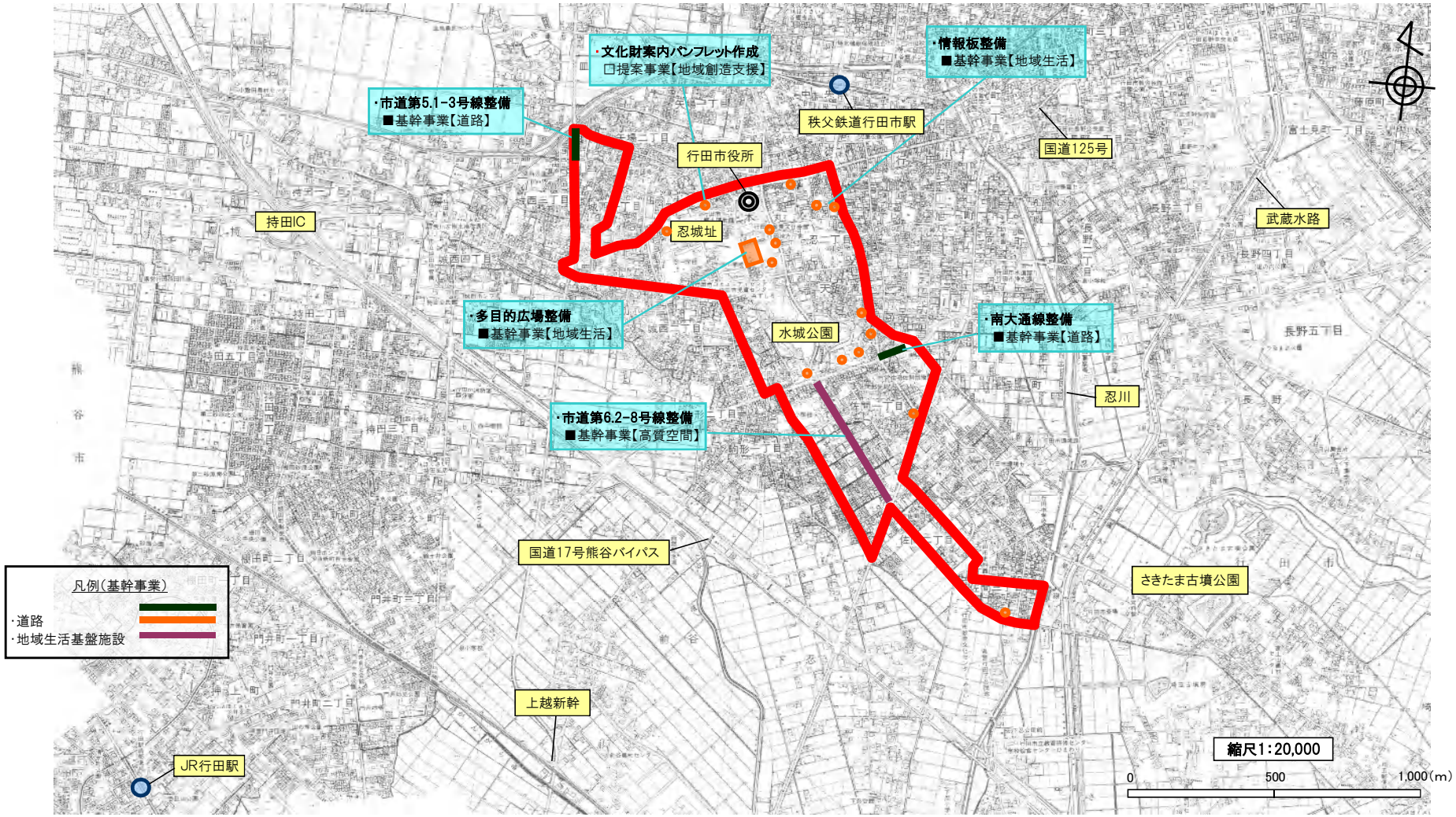
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0

都市再生整備計画の区域

行田市文化ゾーン地区（埼玉県行田市）	面積	110 ha	区域	忍2丁目、天満、城南、本丸、城西1、2、3丁目、矢場2丁目、行田、佐間1、2、3丁目の各一部

※　計画区域が分かるような図面を添付すること。



行田市文化ゾーン地区（埼玉県行田市） 整備方針概要図

目標	水・緑・文化・歴史空間の有機的ネットワークの形成により、交流拠点の整備や市民生活の質の向上を図り、市内全体の活性化を目指す。	代表的な指標	バス利用客数 （ 人 ）	66,703 （H17年度） →	70,000 （H23年度）
			観光入込客数 （ 人 ）	25,000 （H17年度） →	30,000 （H23年度）
			アンケートにおける満足度 （ % ）	39 （H14年度） →	45 （H22年度）